



19
MARCH 2022

校友会会報

ホール便
いても花笠の

録した音声を用いた
画を作成！
導入に支援を活用
配慮した科学実験教室
として活用
パスをBlender,Unity等で
現！
ル活動活性化に貢献する

・ 案内会

- ・ データサイエンス勉強会
- ・ YUCaN学生部会

自然言語処理に関する輪読会を実施
継続的な予算獲得への課題を確認
米沢キャンパスにプラスチック専用
ゴミ箱を設置、学内のゴミ分別意識向上！

宇宙建築賞
中条精一郎の建築物(図書館)を見学

▶司会・進
副学長2名や
トを頂いた



令和3年度「山大生の活動支援プロジェクト(V)」成果発表会



まもなく開始です。
少々お待ちください。

● タイムテーブル

13:30~13:35	開会/ルール説明
13:35~15:15	成果発表
13:35~13:45	「山大生の活動支援プロジェクト」 Archi-eggs
13:45~14:25	「山形大学と交流する会プロジェクト」 花笠サークル四面楚歌・VR部DTM作曲プロジェクト/ SCITAセンター学生スタッフ/VR部Blender勉強会プロジェクト
14:25~15:15	「Rethink PROJECT(JTプロジェクト)」 IVY youth/舟形プロジェクト/模擬裁判実行委員会/ データサイエンス勉強会/YUCaN学生部会
15:15~15:30	各プロジェクト代表者より講評
15:30	閉会

令和3年度
「山大生の活動支援プロジェクト(V)」
成果発表会を開催しました。

Contents

校友会 NEWS	2
オペラの教育機能を活用した〈附属校との協働〉及び 〈高大連携事業〉の推進	
学生によるキャリアCaféの運営	
科学で子供たちに笑顔を届け隊	
同窓生と在学生をつなぐ「山形大学史」資料 アーカイブ構築	
校友会学生幹事コーナー	4
学生サークル紹介	5
TOPICS	6
INFORMATION	8

「成果発表会」の
詳細は校友会HPを
ご覧ください。



校友会キャラクター ぎんなちゃん
(登録商標第6447093号)

校友会とは…

校友会は、山形大学の発展に寄与するため、学生の学業及び課外活動等への助成並びに全学的なキャンパス間の交流活動に
支援を行うとともに、会員相互の親交を図り、「山形大学コミュニティ」の醸成・強化に資することを目的としております。

|校友会|NEWS|

1 オペラの教育機能を活用した 〈附属校との協働〉及び 〈高大連携事業〉の推進



レコーディングの様子

本事業では、オペラ研究会YCMが、これまでの実践を通して構築してきた【総合芸術としてのオペラの教育プログラム】を活用し、音楽による『〈附属校との協働〉』及び『〈高大連携事業〉』の推進を目指しました。また、卒業生との交流を通して連携・協働しながら『地域の生涯音楽学習の推進』を図るとともに、本学の教育・研究の成果を地域に還元できるよう取り組みました。

本事業は令和3年度が最終年度となります。コロナの影響もありましたが、今年度の取り組み実績は下記のとおりです。

①附属校園との協働の推進

- ・7月8日 オペラ《河童譚》
- ・10月14日 ピクニックコンサート
- ・11月18日 オペラ《赤ずきんちゃん》

②オペラの教育機能を活用したアウトリーチプログラム

- ・10月24日 山形市少年自然の家「森のコンサート」
- ・12月18日 じゃんぶ交流会 オペラ《赤ずきんちゃん》
(YouTubeで動画配信後、Zoomで開催)

③卒業生との連携・協働による生涯音楽学習教材の制作

- ・12月15日、21日に山形大学文化ホールで収録済

現在、上記③については、外部委託により「名曲アルバム山形春夏版」を編集作業中です。完成した後に、校友会支援事業の成果として、また本学学生の学修活動の成果としてウェブで公開する計画です。

佐川 馨（地域教育文化学部教授）



春夏版ジャケット

2 学生による キャリアCaféの運営



熱気があふれる会場

今年度は以下の内容で実施しました。

日 時：令和3年11月12日 15:00～16:15（第一部）
16:25～17:50（第二部）
場 所：工学部11号館2階ラウンジ
参加者：企業 20社（OB21名、人事担当者10名）
学生（第一部）35名、（第二部）15名

この事業は、山形大学OBが工学部を訪れ、後輩に対して山形の企業の魅力を語り、山形で働く意義を伝える場です。キャリアcaféにより山形の優良企業の存在を知り、山形の企業で就職を考える際の参考になるだけでなく、学生の就職活動に対する不安を払拭する場となりました。

事業経費から、当日配布用パンフレットを作成してくれた学生への謝礼の図書カード、コロナウイルス感染拡大防止の観点からパーティションを準備しました。また、昨年度各テーブルに企業名を掲示せず、参加者に不便をかけたことから、テーブルにパネルスタンドを設置しました。また、昨年度準備できなかった菓子、飲料を、少量ではありますが準備しました。加えて、昨年度、参加者から司会者の声が聞こえなかったとの声が多く聞かれたため、ワイヤレスマイク付きアンプスピーカーを購入しました。

成果としては、参加学生、OB、企業の人事担当者から「地元の企業について知ることができたので良かった」、「今まで知らなかった多くの企業について知ることができた」、「コロナ禍の中で、学生と対面で話しができる機会を設けてもらえて良かった。学生と企業との交流ということで、企業側からも話しが聞けてとても有意義だった」、「学生の熱意が伝わった。力になりたいと思った。」などのアンケート結果をいただき、コロナ禍の中でも、感染者を出さず満足度の高い事業にすることができました。

米沢キャンパス事務部学務課学生支援担当



熱心に先輩の話を聞く学生さん



感染対策を施し飲料等を用意しました

令和3年度に実施した事業の中から、特徴ある4つの事業を紹介します。



本事業の目的である子供たちに科学の楽しさを伝えるため、以下の活動を実施しました。

- 1) 東日本大震災復興支援事業として、被災地における科学体験イベント（平成23年度から継続実施）
- 2) SCITA秋の科学実験まつり（9/23、天童市）
- 3) SCITA冬のオンライン科学体験教室
- 4) 「第21回全国科学教育ボランティア研究大会（12/19）」にSCITA学生スタッフ2名がオンライン参加

本事業の主目的である子どもたちに科学の楽しさを伝えるボランティア活動の成果は確実に上がってきています。しかしながら、今年度も昨年同様新型コロナ感染症対策のため従来のような対面によるイベントに事業そのものを大きく見直さざるを得なくなり、当初計画していた大きなイベント「夏だ！科学体験教室」等は中止せざるを得なくなりました。その中で科学を楽しんでもらうための方策として、新たなイベント実施の手法開発を学生スタッフが模索しました。

東日本大震災の被災地であり、SCITAセンターのイベントを実施している石巻市では10年経った今でも復興の道はまだまだ遠く子どもたちに笑顔を届けるための一つの手段として科学の楽しさを伝えるイベントは必要とされており、終了後のアンケートでの満足度は、かなり満足93%、満足5%と合計98%の参加者が満足との回答でした。イベント継続の要望、実験のイベントが身近にないため、今回のイベントはとてもありがたい等、感謝の意見も寄せられています。新型コロナ感染症予防対策を講じてこのような特異な事態でも人数を限定して実施ましたが、本事業が喜ばれ、定着し、継続する価値を有していることが認められました。学生スタッフもボランティアで科学の楽しさを伝えることだけではなく新型コロナ感染症拡大という特殊な状況でイベントを成功させたことは、その後のイベントでも活かされ、今後のキャリアアップに繋がると思われます。

SCITAセンター 栗山恭直（理学部教授）



4 同窓生と在学生をつなぐ 「山形大学史」資料 アーカイブ構築



1年目である本年は、小白川キャンパス創設100周年の記念の年でもありました。山形大学附属博物館（以下、「当館」）は、本事業の支援を受けて、ふすま同窓会と共同で『ふすま同窓会設立100年・小白川キャンパス創設100年』を発行しました。

かねてから、当館はふすま同窓会と協議し、ふすま同窓会100周年記念特別展を2020年に実施すべく準備を進めていました。しかし、2020年と2021年は開催を見送らざるを得なかったため、特別展の内容を小冊子にまとめて発行しました。

特別展では在学生である博物館実習の受講生が展示の一部の企画から制作までを担当する予定でした。こちらもオンラインコンテンツ制作に切り替え、できあがったコンテンツは小冊子とともに特設サイトを作成して公開しました。同窓生と在学生をつなぐという目的の一部は達成できたと考えています。

「山形大学史」資料アーカイブ構築事業にも着手しました。現在は資料の収集と、デジタルアーカイブとして公開するための資料のデジタル化の作業を行っています。皆さんにご活用いただけるアーカイブにすべく検討を重ねています。公開の日をお待ちください。

附属博物館
佐藤 琴（学士課程基盤教育機構 准教授）



特設サイト

創設100

100

100

3

校友会 学生幹事コーナー

令和3年度「山大生×若手卒業生交流会」を開催しました

2022年2月19日(土)、令和3年度「山大生×若手卒業生交流会」をオンラインで開催しました。今回のテーマは「先輩!仕事の話とか聞かせてください!」。若手卒業生3名をゲストスピーカーにお招きし、現役学生と若手卒業生(39歳以下)の10名が交流を深めました。

冒頭、本会を企画し、司会を務めた校友会学生幹事の外塚未夢さん(農学部1年)が開催趣旨を説明した後、校友会の樋口事務局長が校友会の概要を説明しました。第1部では、菊地航平さん(令和3年人文社会科学部卒)、島崎梨紗さん(平成27年人文学部卒)、北川冬弥さん(平成31年理工学研究科修士課程修了)から山大生時代や現在の仕事内容について発表があり、「夢と可能性にあふれている」「自分のやりたいことを知ろう」「作れるだけコミュニティを作る」などのメッセージをいただきました。続く第2部では、3名のゲストスピーカーとの質疑応答と参加者の自己紹介が行われたあと、活発な交流が行われました。

参加した新田ゆいさん(地域教育文化学部3年)は、「理想を求めて次から次へと挑戦し続ける先輩方の話は、目から鱗なものばかりでした。私も不安を乗り越えた先にあるやりがいや楽しさに向けて、果敢に飛び込んでいこうと思います。」と感想を述べています。

今回のオンライン交流会は、校友会YouTubeチャンネルで公開していますので、皆さまぜひご覧ください。



最後にみんなで記念撮影

学生幹事が考えるコロナ禍

学生幹事に
3つの質問を
しました!

- 1: コロナ禍が始まり丸2年になりますが、皆さんのが山形大学生活で影響したことや変化をお教えください。
- 2: 1の問い合わせに対する影響や変化に対してさんはどのように感じ、行動しましたか。
- 3: 来年度の抱負を教えてください。



小田祐樹さん
医学部1年

- 1: 医学部は新歓期間が7月にずれ込んでしまいました。そのため、例年は4月頃に先輩から教わる、履修登録のやり方、るべき授業などがわからず不安が大きかったです。
- 2: オンライン期間中は、SNSやtea-partyで知り合った友人と情報共有をして乗り切っていました。
- 3: 医学部の2年生は勉強、実習などでかなり忙しいと聞いています。学業に励みつつ、部活にも参加して充実した1年にしたいです。

- 1: 私は2020年度、2021年度ともに交換留学を希望していたのですが、コロナの影響で実現することはできませんでした。
- 2: コロナが終息して、渡航できるようになった時に、新たに発展したオンラインツールを駆使して語学力の向上に励みました。
- 3: 大学生最後の年になるので、キャンパスライフを充実させたいと思います!また、山形県の魅力をもっと発見できるような1年にしたいです!



井上愛理さん
人文社会科学部3年

- 1: 実習は全て対面で出来たことはその講座の理解度がある程度良かったが、今は全てZOOMとなっている。後々の習熟度は対面の方が良いのかなと個人的には思う。
- 2: 暗記系はアナログであることには変わりないが、電子媒体でのデータ共有がより活発になった。大学はデジタル化をもう少し推し進めていいのではないかとも思う。
- 3: 医学科は2年生の座学が一二を争うほど大変だと聞く。先取り、計画的な学習を進めるとともに、コロナ禍でも出来ることを新たに見出していくことができれば良いと思う。



小山純晴さん
医学部1年



火原諒子さん
理学部3年

- 1: まず、後悔や無念などについてです。所属している学生任意団体での、後輩の歓迎会が出来なかったことが心残ります。先輩へのセレモニーも中止せざるを得ませんでした。

ですが、良いこともあります。特別定額給付金の10万円を活用して、デスクトップパソコンを購入しました。これにより、サイエンスコミュニケーションの課題制作、他の講義におけるマシンパワーが必要な場面などで、スムーズな作業を行なうことが可能になりました。また、遠隔地(主に都会地域)との会議がweb上で行える様な社会になったことは、山形県の学生にとっては非常にありがたいことである、と感じております。

- 2: コロナ禍を通じて、私は「自分が動かなければ状況はなにも変わらない」と、いうことを痛感いたしました。ですので、新型コロナウイルス感染症の流行は、常に受け身の姿勢だった私を、主体的に行動する私へと変化させてくれたと感じております。コロナ禍であっても自分に出来ることを精いっぱい取り組み続けることは、将来の自分の糧になるだろうと、今は考えております。
- 3: 私は来年度からいよいよ卒業研究をスタートします。先の見えない状況で、サンプリング地点の現地を訪問できるかどうかも不透明ですが、山形でも、家でも出来ることを必死に模索していこうという所存です。

学生サークル紹介

山形大学ジャズ研究会（小白川キャンパス）

このコーナーでは、校友会事務局へ寄稿された学生サークルの活動を紹介します。今回はジャズ研究会（小白川キャンパス）と無線研究会（米沢キャンパス JA7YAB 局運用拠点）です。

1. サークルとしての活動

ジャズのコンボのセッションが基本的な活動です。毎週1回部室セッション、毎月一回バーでのセッションがあります。月一セッションの様子は写真をご覧ください。

写真はカッコよく撮ってもらっていますが、サークルの雰囲気としてはのんびりほのぼのした感じです。部室では理論の勉強会や練習会をすることもあります。

また何かイベントがあればサークルとして参加することもあります。山形大学のイベント（学園祭、新歓イベント）でライブやセッションをしたり、芸工大主催のイベントに参加したりしています。

かつては東北大学と合同で、全国から人が集まるジャズ合宿を開催していました。状況次第では復活できるかもしれません。



月一セッションの様子

2. 個人の活動

県内外のイベントにサークルのメンバーが参加することもあります。山形や仙台や福島などのライブ、セッションなどに参加しています。社会人の方に誘われて参加することもあれば、学生が企画することもあります。

大学からジャズや楽器を始める人がほとんどです。これから始めたい初心者の方からガチプロまで誰でも歓迎です。ジャズに限らず色々なジャンルの音楽に興味がある方もぜひお越しください。

現在は部室セッションは毎週金曜日の17:00前後から開催されています。場所は体育館横の部室棟2階です。

それ以外のイベントについてはtwitterで告知しますのでフォローよろしくお願いします。質問もお気軽にDMまでどうぞ。

連絡先：
Twitter/
@ymgtjazzken



山形大学無線研究会

（米沢キャンパス
JA7YAB局運用拠点）



こんにちは!こちらは山形大学で50年以上の歴史を持つサークル「山形大学無線研究会」です。我々はアマチュア無線に関する活動を主とし、以下の活動を行っております。

- アマチュア無線（運用・国家資格アマチュア無線技士学習） ←初心者大歓迎!
- 電子工作（Raspberry Pi等による無線機モールス信号解析機）
- パソコン関係（自作・改造に関する実機テストと調査）
- 廃棄済機械の再利用（パソコンや測定・電源機器類）

ここ数年はコンピュータに関する活動がメインでしたが、2019年の無線局免許更新を機に、数年間停止していた無線活動の再開に向けて動き出し、壊れた無線設備を少しづつ修理しつつ、現在はモバイル機で移動運用を行い国内の方と交信しています。

今年は顧問の小坂哲夫先生と中島健介先生のお力もお借りして50MHzのアンテナを新設し、今後は八木アンテナを修復してHF(短波)による世界中の交信を目指します!

経験者（無線資格保持者は是非）、初心者、パソコン電子工作のみを極めたい方も大歓迎です！筆者自身も“知識ゼロ”から始めていますので、少しでも興味があれば金曜日には是非部室に様子を見に来てください！（事前に連絡を貰えると確実に見学可能です^;；）

また質問・見学日程などはメールやTwitterへお気軽に連絡をください。アンテナを高くしてお待ちしております!!!

連絡先 e-mail : ja7yab@gmail.com



Twitter



総務省
認可無線局
(JA7YAB)

山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会」で 玉手学長が講演

2021年12月5日(日)、フクラシア東京ステーションにおいて、令和3年度山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会を開催しました。

「山形大学卒業生等首都圏ネットワーク」とは、首都圏に居住又は勤務する山形大学の卒業生及び教職員等との連携協力を図り、首都圏の山形大学卒業生等のコミュニティを醸成・強化し、山形大学の発展に貢献することを目的に、平成26年に設立されました。

コロナ禍の影響で2年ぶりの開催となった今回は、東京駅に隣接する会場で、参加者を21名に限定して開催し、ウェビナーで会員以外の方20名にも公開しました。

冒頭、同ネットワークの大泉征雄会長(米沢工業会理事)が「山形大学の卒業生は今や全国で活躍している。その各地域で横に強い全学同窓会を構築すれば必ずや山形大学に貢献できる。是非、我々が全学同窓会の先駆となるよう強い同窓会に育てていこうではありませんか」とあいさつ。これに対して、玉手英利学長は、「コロナ禍で学生たちの大学に対する意識、コミュニケーションが随分変わってきていた。そういう中で同窓会の中に学生たち、あるいは若い世代が参加していく体制を作るには特段の努力が必要になってきている。本日の総会では各同窓会の皆さまからの様々なご意見を拝聴し、これから大学がどういうことをやっていくべきかを考えたい」と応えました。



会場の様子

議事の前に行われた玉手学長による講演「山形大学のSDGs～自然と人間の共生～」では、今回初の参加となつた玉手学長の自己紹介から始まり、画像による山形大の近況報告、経済困窮学生支援への御礼、研究から考えた「自然と人間の共生」、そして山形大学におけるSDGsの取組が紹介されました。

議事では、年度内に行う各事業の審議のほか、首都圏ネットワークの課題・将来構想等について、率直で活発な意見交換が行われました。

ウェビナー参加者からは、「有意義な総会で今後の展開が見えてきそうです」、「各同窓会のまとめ役、繋ぎ役としてご苦労されていること、良く認識できました。次代への過渡期、大変でしょうが頑張って頂きたいと思います」などのコメントが寄せられました。

山形大学校友会では、今回の審議内容をしっかりと受け止め、理事会等で検討してまいります。



最後にみんなで集合撮影

ふすま同窓会百年記念祭に 出席しました

2021年10月30日(土)、ホテルメトロポリタン山形において、「ふすま同窓会百年記念祭」が開催され、山形大学から、玉手英利学長、鈴木亨人文社会学部副学部長(是川学部長代理)、大西彰正理学部長、伴雅雄附属博物館長、記念論文受賞者及び審査委員、ティーデマン・ふすま賞受賞者及び指導教員、校友会からは樋口浩朗事務局長(ふすま23回)が来賓として出席しました。

コロナ禍の影響で昨年10月から1年延期して開催された記念祭は、祝宴等の行事を中止



し、山形県内在住者に限定して開催されました。冒頭、約90名の出席者を前に、高橋節実行委員長と野村一芳会長が、全国の同窓生と集えない無念をにじませた挨拶をされました。これを受けた玉手学長は、困難な中での開催への謝意とともに「山形大学のアイデンティティはふすま同窓会なしには語ることができない」と祝辞を述べました。

その後、功労者への感謝状の贈呈、記念論文及びティーデマン・ふすま賞の表彰、祝舞、寮歌・学生歌齊唱(静聴)と続き、最後は遠藤直幸副会長による万歳三唱で90分の記念祭は終了しました。



ティーデマン・ふすま賞表彰

第49代模擬裁判実行委員会 活動報告

山形大学模擬裁判実行委員会は、去る2021年12月4日、山形テルサにおきまして、第49回模擬裁判公演を無事に開催させていただくことができました。おかげさまで、本当に多くの方々にご来場いただき、各方面から好評の声を賜りました。こうして本公演が成功しましたのも、ひとえに多くの方々のご支援、ご協力のおかげと感謝いたしております。

第49回模擬裁判公演では「同性婚」をテーマとして取り上げました。前人未踏のテーマではありましたが、札幌訴訟弁護団や東京訴訟の原告の方へオンラインで取材などを行なながら、積極的に同性婚訴訟の研究を進め、同時に性的少数者の方々を取り巻く現状と法廷外の日常描写のリアリティを追求しました。

この公演が、日本社会における性的少数者や同性婚に関する議論に一石を投じたものになれば、幸いです。また、48回公演に引き続き、万全の感染症対策の上で公演を実施いたしました。検温、消毒や緊急連絡先の記入などの感染症対策へのご協力をいただき、ありがとうございました。

49回公演を終え、49代は引退し、50代模擬裁判実行



公演中の様子 演者はマスクを着用して演技しました

委員会が始動しました。振り返ると、49回公演の開催にあたっては本当に多くの壁が立ちはだかっていました。参考にする判例が無い状態でのテーマ決定に加え、先行きが見えないコロナウイルスの流行で、模擬裁判公演開催自体が危ぶまれていたこと、そんな困難も多かった分、自分達は「挑戦者」だ、という志気・連帯感は委員会内で非常に

高まっていたと思います。私は当初、委員長としてこのテーマを目指すことに不安がありました。しかし、一人一人がやる気に満ちた目で1つの公演を作り上げる姿を見て、最後大きな拍手を頂いたとき、諦めなくて良かったと強く思いました。私はここで声を大にして言いたいのです。ここまで諦めずに來ることができたのは、同じ夢を持った仲間達がいつも側におり、一緒に進んで來ることができたからです。49代を共にした仲間達には感謝しかありません。

今後とも山形大学校友会をはじめ、地域の皆様ならびに諸先輩方に、関心をお寄せいただけるような活動に励んで参りますので、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第49代模擬裁判実行委員会
委員長 菅野光平



第49回模擬裁判公演ポスター

「ぎんなちゃん」 画像人気投票を行いました！

山形大学校友会では、昨年度公募により選ばれたキャラクター「ぎんなちゃん（登録商標）」を皆さんに親しまれるキャラクターとして今後も広く活用したいと考え、これまでメールマガジン仕様で使用した「ぎんなちゃん」(81～90号)の中でどの画像が好みかを読者の皆さんにアンケートでお聞きしました（回答受付期間：2021年12月15日（水）～2022年1月10日（月））。

一番人気だったのは、81号の「ぎんなちゃん」です！ 読者の皆さまからは「色合いが好み」、「色の調和がとれている」とのご意見をいただきました。

また、今後は「季節などにあわせて都度変える」「継続して欲しい」という意見もいただいておりますので、81号をベー

スとして季節に合わせたぎんなちゃんの画像をお届けいたします。



令和3年度山形大学同窓生セミナーを開催しました

2022年3月5日(土)、令和3年度山形大学同窓生セミナーを開催しました。昨年に引き続きオンラインで開催した会には1966(昭和41)年文理学部卒業の大先輩から現役の学生まで28名が参加しました。

冒頭、玉手英利学長(校友会会长)が、「コロナ禍が収まらず、21世紀とは思えない戦争まで起り、社会全体が鬱々としておりますが、このセミナーが皆さまにとってリフレッシュできるひと時となることを願っております」とあいさつ。続いて、卒業生講演として、井口雄一様(平成4年人文学部卒)と江上聰様(平成8年人文学部卒)のお二人から「山形から世界へ」をテーマに山大時代から世界での活躍、そして現在の母校との協働についてお話をいただきました。

休憩時間には、山形大学農学部附属フィールド科学センター(高坂農場)と山形大学生活協同組合の通信販売を紹介しました。送料は校友会負担の本セミナーの限定商品でした。

後半のサークル活動紹介では、花笠サークル四面楚歌から、「名所 de 花笠(YouTubeチャンネル)」、混声合唱団からは、「みどり樹」と「こころのつばさ」の合唱(動画)を披露いただきました。オンライン参加の第50代模擬裁判実行委員会委員長の佐々木裕紀さん(人文社会科学部2年)からは、昨年12月の公演内容の報告の後、来年度の公演テーマ「ヤングケアラー」が初めて公表されました。

校友会への入会案内

山形大学校友会に未だ加入されていない 卒業生の皆さまへ(お願い)

校友会は、学生の修学、課外活動及び就職活動並びに全学的な交流活動の支援を行うと共に、会員相互の親交を図り「山形大学コミュニティ」の醸成や強化に資るために様々な事業を展開しています。具体的な事業は、会報に掲載しているとおりですが、これらの事業は、在学生、卒業生、役員、教職員及び本会趣旨賛同者の生涯会費(1万円)により行われています。

については、多くの皆さんにご加入をお願い申し上げます。会員(入学時加入会員除く)の方には、定期的に校友会会報や大学の様々な広報誌を送付しています。

山形大学コミュニティ



入会申込手続き: 払込取扱票に必要事項をご記入の上、『郵便
為替』により生涯会費1万円をお振り込みください。(払込取扱票
は、校友会事務局にありますので、ご連絡ください。)

入会日: 会費の納入により入会となります。

続いて、ふすま同窓会会长の野村一芳様、地域教育文化学部同窓会会长の渋谷光夫様、米沢工業会理事長の大沼正国様、鶴窓会会长の菅原幸司様から、各同窓会の活動等について紹介いただきました。

最後に、全体を通して活発な意見交換が行われ、矢作清理事・副学長が、「今後もオンラインを併用しながら様々な企画をしてまいります。次回は首都圏で皆さまと直接お会いすることを楽しみにしております」とあいさつし、閉会となりました。

今回のセミナーは校友会YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。



リンク
(イベントページ)



校友会 YouTube
チャンネル

最後にみんなで記念撮影

山形大学校友会交流プラットフォーム登録に関するお願い

山形大学卒業生の皆さまへ

「山形大学コミュニティの醸成・強化」を目的とする山形大学校友会は、卒業生の皆さまのQOL(quality of life)の向上に少しでも貢献したいと考え、「交流プラットフォーム」を構築し、各学部同窓会と連携の上、様々な場の提供とサービスの充実を図って参ります。

具体的には、全国各地区で活躍する卒業生の皆さまとの異業種交流会やオンライン勉強会、ホームカミングデー、お花見や芋煮会等のイベントの企画、懐かしのキャンパス訪問ツアーや学年別・研究室別・サークル別同窓会のコーディネート等です。

つきましては、上記プラットフォームの充実に欠かせない情報について、是非ご検討いただき、校友会HPよりご登録願います。

ご登録いただいた皆さまには、山形大学オリジナルボールペンを贈呈するとともに、「校友会メールマガジン」で「母校の今」をお知らせするほか、様々な情報を届けます。

登録させていただいた個人情報は、校友会及び各学部同窓会の活動のみに使用し、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律を遵守して厳正に管理いたします。

読者アンケート

今号から読者アンケートを実施いたします。皆さまとの双方コミュニケーションを図り、この会報が「山形大学コミュニティの醸成・強化」に貢献できるよう内容を充実してまいりますので、是非ご協力願います。



編集後記

今号では、「学生幹事が考えるコロナ禍」で学生幹事の言葉を紹介しています。長引くコロナ禍でキャンパスライフに大きな影響が出ていますが、「出来ることを必死に模索」する姿勢を見習わねばと思いました。

(校友会事務局長 樋口)



校友会 HP



Twitter



Facebook



Instagram

山形大学エンロールメント・マネジメント部 山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL:023(628)4867 FAX:023(628)4185

E-mail:yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <https://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>